学校番号	2003

平成 31年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	「明解世界史 A」（帝国書院）						
副教材等	最新世界史図説 （帝国書院）						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

・歴史的事象の原因・背景に地理的観点を導入する。

・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、日本の歴史と対比させつつ。今後の日本の方向性を考察する。

2 学習の到達目標

・諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。

・現代の諸課題を近現代史を中心とする歴史と結び付け歴史的観点から考察することができる。

・世界の歴史を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	ワークシート レポート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査
	〔主題学習〕 振り返りシート	〔主題学習〕 レポート 報告会での発表内容	〔主題学習〕 ポスター	〔主題学習〕 内容のまとまり
	※「主題学習」とは主題を設定して行う学習活動で、適切な時間を確保して行う。			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	世界史へのいざない	自然環境と歴史，日本の歴史と世界の歴史のつながりにかかわる適切な主題を設定し，考察することで地理と歴史への関心を高め，世界史学習の意義に気づかせる。	○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	a:自然環境と歴史、日本の歴史と世界の歴史のつながりに関わる主題を意欲的に考察し、地理と歴史への関心を高めようとしている。 b:設定された主題について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:設定された主題について、事例の考察に必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:設定された主題について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	ワークシート
	1 部　世界の一体化と日本 1 章　前近代の文明 序章　人類の始まり 2 節　南アジアの文明 3 節　東南アジアの文明 4 節　西アジア・北アフリカの文明 5 節　ヨーロッパの文明 6 節　南北アメリカの文明 7 節　ユーラシアの交流圏	人類の登場と，農耕・牧畜による食料生産を基礎にして，人類が文明を築き，歴史時代へはいっていくありさまを地域ごとに概観し，各地域世界が形づくられていく過程を理解する。	○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	○	a:ユーラシア各地に形成された諸文明の特質と、ユーラシアの交流について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b:ユーラシア諸文明と交流の特質を見いだし、地域世界相互の文化変容などと関連付けながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:ユーラシア各地に形成された諸文明と交流の特質について理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート
2学期	2 章　一体化に向かう世界 1 節　繁栄するアジア	アジアのティムール・オスマン・ムガル・明・清などの諸帝国の政治と社会にふれ，この時期に安定した支配と経済の繁栄を背景に，文化も黄金時代を迎えたことを理解する。	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a:成熟期を迎えたアジアの諸帝国に対する関心を高め，意欲的に追究し，その特色について考えようとしている。 b:成熟期を迎えたアジアの諸帝国の特色について考察し，判断した過程や結果を適切に表現している。 c:成熟期を迎えたアジアの諸帝国の特色に関する資料を収集し，適切に活用する技能を身につけている。 d：成熟期を迎えたアジアの諸帝国の特色を理解し，その知識を身につけている。かつ 16～18 世紀にかけてのヨーロッパ世界の特色(ルネサンス・宗教改革・新航路の開拓・主権国家体制など)を理解している。	定期考査 ワークシート

	3 章 欧米の 工業化とアジア諸国の動揺 1 節　ヨーロッパとアメリカの諸革命	アメリカ諸国の独立，フランス革命，産業革命，拡大する貿易活動などを通して，西ヨーロッパとアメリカに産業社会が成立し，市民社会および国民国家の形成が進行したことを理解する。	○ ○ ○	○	○ ○ ○	○ ○	a:18 世紀後半から 19 世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命に対する関心を高め，意欲的に追究し，社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことについて考えようとしている。 b:18 世紀後半から 19 世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命を考察し，社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを判断して，一連の思考の過程を適切に表現している。 c:18 世紀後半から 19 世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命に関する資料を収集し，適切に活用して，社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを考察する技能を身につけている。 d:18 世紀後半から 19 世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命について理解し，その知識を身につけている。	
	2 節　自由主義・ナショナリズムの 進展	19 世紀後半のヨーロッパ，アメリカ社会を通して，自由主義とナショナリズムが進展していくようすとアメリカの発展について理解する。	○ ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○	a:1848 年を転換点として，自由主義とナショナリズムが進展したことに対する関心を高め，意欲的に追究し，考えようとしている。 b:1848 年を転換点として，自由主義とナショナリズムが進展したことについて考察し，判断した過程や結果を適切に表現している。 c:1848 年を転換点として，自由主義とナショナリズムが進展したことに関する資料を収集し，適切に活用する技能を身につけている。 d:1848 年を転換点として，自由主義とナショナリズムが進展したことを理解し，その知識を身につけている。	
	3 節　アジア諸国の動揺	オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊などを通して，世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況，植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折，伝統文化の変容など，アジア諸国の動揺のようすを理解する。	○ ○ ○	○ ○	○	○ ○	a:アジア諸国の内部で進行していた変化と，ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め，意欲的に追究するとともに，その特質について考えようとしている。 b:アジア諸国の内部で進行していた変化と，ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌について考察し，判断した過程や結果を適切に表現している。 c:アジア諸国の内部で進行していた変化と，ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に関する資料を収集し，適切に活用する技能を身につけている。 d:世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況，植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折，伝統文化の変容など，アジア諸国の動揺を理解し，その知識を身につけている。	

	4 節　東アジアの大変動	アヘン戦争やアロー戦争などの西洋の衝撃により，冊封＝朝貢体制に基づく東アジアの伝統的な国際秩序が崩壊していく過程を通して，ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況，半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折，その中での日本の対応など，東アジアの大変動を理解する。	○ ○ ○ ○	 ○ ○	○	 ○ ○	a:東アジア諸国の内部で進行していた変化と，ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め，意欲的に追究するとともに，その特質について考えようとしている。 b:東アジア諸国の内部で進行していた変化と，ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌を考察し，判断した過程や結果を適切に表現している。 c：東アジア諸国の内部で進行していた変化と，ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に関する資料を収集し，適切に活用する技能を身につけている。 d：ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況，半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折，その中での日本の対応など，東アジアのようすを理解し，その知識を身につけている。	
	2 部　地球社会と日本 1 章　現代世界の芽生えと第 1 次世界大戦 1 節　現在につながる社会の形成	交通革命，マス=メディアの発達，企業や国家の巨大化，社会の大衆化と政治や文化の変容，公教育の普及と国民統合などを通して，20 世紀という時代の特質を把握するとともに，欧米諸国によるアジア･アフリカの植民地化をめぐる競合と人口移動から，世界の支配･従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。	○ ○ ○ ○	 ○ ○	○	 ○ ○	a：19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて，欧米諸国や日本などにみられた社会の急激な変化と 19 世紀の世界の一体化に対する関心を高め，意欲的に追究するとともに，その特質を人類史的視野から考えようとしている。 b：19 紀末から 20 世紀初頭にかけて，欧米諸国や日本などにみられた社会の急激な変化と 19 世紀の世界の一体化について考察し，判断した過程や結果を適切に表現している。 c :19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて，欧米諸国や日本などにみられた社会の急激な変化と 19 世紀の世界の一体化に関する資料を収集し，適切に活用する技能を身につけている。 d：産業構造の変化や大量消費社会･大衆社会の始まりなど，20 世紀という時代の特質を人類史的視野から把握するとともに，欧米諸国によるアジア･アフリカの植民地化をめぐる競合と人口移動から世界の支配･従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解し，その知識を身につけている。	
	2 節　第一次世界大戦がもたらしたもの	第一次世界大戦と総力戦としての様相，ロシア革命，ソヴィエト連邦の成立，戦争と革命による国際秩序の変化，アメリカの大衆生活とその波及を通して，20 世紀初頭の変化の様相を理解する。	○ ○ ○ ○	 ○ ○	○	 ○ ○	a：第一次世界大戦の原因と性格，平和の意義などに対する関心を高め，意欲的に追究するとともに，20 世紀初頭の変化の様相について考えようとしている。 b：第一次世界大戦の原因と性格，平和の意義について考察し，20 世紀初頭の変化の様相について考察し，一連の思考の過程を適切に表現している。 c：第一次世界大戦の原因と性格，平和の意義と 20 世紀初頭の変化の様相に関する資料を収集し，適切に活用する技能を身につけている。 d：第一次世界大戦の原因と性格，ロシア革命の展開とそれが世界に与えた影響，戦争と革命による国際秩序の変化，国際協調とヴェルサイユ体制，アメリカ的生活様式の資本主義社会への普及について理解し，その知識を身につけている。	

3学期	3節 ″民族自決″を求めて	インド・中東および東アジアの民族運動を通して，″民族自決″を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。	○ ○ ○ ○	 ○ ○	○	 ○ ○	a：インド・中東および東アジアの民族運動に対する関心を高め，意欲的に追究するとともに，″民族自決″を求めたアジアのナショナリズムの動きについて考えようとしている。 b：インド・中東および東アジアの民族運動について考察し，″民族自決″を求めたアジアのナショナリズムの動きについて考察し，一連の思考の過程を適切に表現している。 c：インド・中東および東アジアの民族運動と″民族自決″を求めたアジアのナショナリズムの動きに関する資料を収集し，適切に活用する技能を身につけている。 d：第一次世界大戦後，インド・トルコ・中国などの民族運動が大衆的基盤をもち，アジア諸民族の動向が世界史の新しい潮流をつくり出したことを理解し，その知識を身につけている。	
	4節 経済危機から第二次世界大戦へ	第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格，それらが及ぼした影響を理解し，平和の意義などについて考察する。2部1章2節とあわせて20世紀前半の国際政治の流れを概観し，国際関係の変遷と社会の特質を理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		 ○	a：世界恐慌と資本主義の変容，20 世紀前半の国際政治の流れ，第二次世界大戦の原因や性格などに対する関心を高め，意欲的に追究するとともに，現代の戦争の特質と平和の意義について考え，国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 b:世界恐慌と資本主義の変容，20 世紀前半の国際政治の流れ，第二次世界大戦の原因や性格，現代の戦争の特質と平和の意義などについて考察し，判断した過程や結果を適切に表現している。 c：世界恐慌と資本主義の変容，20 世紀前半の国際政治の流れ，第二次世界大戦の原因や性格，現代の戦争の特質と平和の意義などに関する資料を収集し，適切に活用する技能を身につけている。 d：世界恐慌と資本主義の変容，20 世紀前半の国際政治の流れ，第二次世界大戦の原因や性格，現代の戦争の特質と平和の意義について理解し，その知識を身につけている。	
	2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代	第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立，アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解し，核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		 ○	a:第二次世界大戦後の米ソを中心とする両陣営間の対立や，アジア・アフリカ諸地域でみられた民族独立運動の展開，平和共存と多極化の進展などを通して，1970 年頃までの世界の大きな動向について関心を高め，意欲的に追究し，考え，国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 b:第二次世界大戦後の米ソを中心とする両陣営間の対立や，アジア・アフリカ諸地域でみられた民族独立運動の展開，平和共存と多極化の進展などを通して，1970 年頃までの世界の大きな動向について考察し，判断した過程や結果について適切に表現している。 c:第二次世界大戦後の米ソを中心とする両陣営間の対立や，アジア・アフリカ諸地域でみられた民族独立運動の展開，平和共存と多極化の進展などを通して，1970 年頃までの世界の大きな動向に関する資料を収集し，適切に活用する技能を身につけている。 d:第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立，アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立，平和共存と多極化の進展などを通して，1970 年頃までの世界の大きな動向について理解し，その知識を身につけている。	

	4 節　持続可能な社会をめざして	冷戦終結後の世界の政治･経済の動向について理解するとともに，日本が世界の諸国･諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向を模索し，これからの国際社会における日本の役割について考察する。					a:19 世紀末から 20 世紀初頭にみられた社会の急激な変化や、二つの世界大戦の原因や影響と平和の意義等に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b:20 世紀初頭にみられた社会の急激な変化の具体的な様相や、二つの世界大戦の原因や影響と平和の意義について多面的･多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:20 世紀という時代の特質、二つの世界大戦の原因や総力戦としての性格、両大戦の影響と平和の意義などに関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:20 世紀という時代の基本的な事柄や、二つの世界大戦の原因や総力戦としての性格についての基本的な事柄を、両大戦の影響と平和の意義などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	
	課題学習	ここまで学習したことをふまえ，現代世界の特徴や課題について，それぞれが興味のあるテーマを見つけて決定し，自ら調べて，レポートにまとめ，報告･発表する。意見交換の場を通して，自分の意見をいっそう明確にしたり，修正･再検討を加える。	○ ○	○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:主題を追究することで，現代世界の特徴や課題への関心と世界史学習への意欲をもとうとしている。 b:適切な主題を設定して考察し，判断した過程や結果を適切に表現している。 c：資料を用いて追究した過程や結果について，報告書にまとめ，発表や討論をする。 d:適切な主題に関連した現代世界の特徴や課題について理解し，その知識を身につけている。	ワークシート

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。